

＼今年もおいしくできました！／ 宮城・黒澤さんのひとめぼれ 新規契約者を募集



9月3回カタログ表紙にて2025年産「黒澤さんのひとめぼれ」を掲載しています。お届けは9月4回からになりますが、今回は新規契約者募集のお知らせです。（2025年度産コシヒカリ・ササニシキは10月2回からお届け予定で別途募集）

黒澤さんは親子3代50年以上にわたり農薬や化学肥料に頼らないお米作りをしています。特徴としては、何といっても「土づくり」。自身の田んぼから出たもみ殻や米ぬか、雑草などを使った堆肥づくりが基礎になっています。しっかりと発酵させた堆肥を田んぼに投入し、微生物が棲む層を豊かにするために、あえて浅く耕運機をかける事で“トロトロ層”と呼ばれる最良の状態をつくり、田植えの時期を迎えます。

田植え後、**1区画10回除草作業をしていきます**。右写真の乗用除草機は地元の機械メーカーと黒澤さんがタッグを組んで開発したオリジナルです。一般的には、無農薬栽培は収量が減るといわれていますが、こういった努力と丁寧な管理の甲斐あって黒澤さんは慣行栽培と同等の収穫量をあげる事ができます。

手間を惜しまず無農薬でのお米作りを続ける黒澤さんの取り組みをぜひ予約注文（契約）で応援していきましょう！（新規契約者募集のお知らせは次ページにてご案内しています）



（商品部 お米担当：横関）

2025年9月・10月の予定

○生協基幹運営/地域活動・催し●	○提携・協同・連帯企画●
○「常総っ子応援団」in流星台プレイヤーク:毎週木曜日 10~14時 活動中です！（出入り自由）開催日は常総生協ホームページ（イベント一覧）をご覧ください。	9/20(土)甲状腺検診@牛久 9/23(火・祝)さよなら原発集会@代々木公園 9/28(日)JCO臨界事故26周年集会 10/25-26(土-日)甲状腺検診@那須塩原
9/13(土)お茶摘み体験交流会・淹れ方講座(長治園) 9/20(土)石鹼学習会(ボーソー油脂) 9/27(土)理事会 10/4(土)生協まつり(取手ウェルネスプラザ)	

生協ホームページ

各種募金は、下記【注文番号】で、毎週受付しております。ご協力をお願い致します。

Instagram

- ★【注文番号: 500251】東海第二原発差止訴訟基金 1口500円
- ★【注文番号: 500252】関東子ども健康調査支援基金 1口1000円
- ★【注文番号: 500253】被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】 1口500円
- ★【注文番号: 500254】JOSO脱プラ基金 1口500円
- ★【注文番号: 500257】岩瀬牧場・養豚基金 1口500円



宮城・黒澤さんのひとめぼれ 新規契約者募集

～予約注文（契約）をおすすめします～

・契約することで買い忘れが無いことと、少しお得に購入できます。何より生産者も来年に向けて安心して作付けできます（生産者は前年の実績も考えながら作付けします）。

※現在、契約されている方は申し出がなければ、そのまま継続となります。

※コシヒカリ・ササニシキの2025年度産は10月2回からお届け予定で、別途募集します。

【契約価格】

- ・白米・7分・5分（5kg）：通常組合員価格5,184円（税込）→契約価格5,060円（税込）
- ・玄米（5kg）：通常組合員価格4,860円（税込）→契約価格4,736円（税込）

【契約の申し込み方法】

- ・生協の配達時に「下記の2つの情報」をお知らせください。

※常総生協のネット注文画面 → 「組合員問い合わせ」からでもOK。

①スタート回	月回～スタート	※ひとめぼれ新米のお届けは9月4回～になります。
②お届けサイクル	「毎週」・「隔週」・「（ ）週に1回」	※希望のお届けサイクルに○印をつける、または記入してください。

組合員番号（ ）組合員名（ ）

-----キリトリ（ここから上を提出してください）-----

8/22（金）東海第二原発差止訴訟 第7回口頭弁論@東京高裁



第7回の口頭弁論で印象深かった2つの主張について報告します。

○鈴木裕也弁護士は、裁判上とても重要な「判断枠組み」という点から日本原電の主張への反論を行いました。一審水戸地裁は福島原発事故の経験から「原子力事故は、他の科学技術と異なる被害の甚大さをもたらすことを認識し、5層の防護すべてが機能して初めて防護可能となるため、5層目にあたる「避難計画」が「実効性」からほど遠い状況は、”

鈴木弁護士 人格権侵害の具体的危険を基礎づける”として『東海第二原発の運転差止』を命じました。更田豊志原子力規制委員長（令和3年当時）は国会答弁で、”基準適合判断がある炉であっても百テラベクレルを上回るような放射性物質の放出を起こす事故の可能性は否定すべきではない”としており、裁判で日本原電が「基準適合判断がある以上、規制委は避難計画が不要なほどに原子力災害発生の蓋然性（それが起きる可能性）が十分低減されたと評価している」などという主張は、成り立たない」としました。



○東海村に住む原告 大名さんの意見陳述 大名美恵子さんは1954年、茨城県那珂郡旧村松村（後の東海村）の生まれ。「白砂青松の地」と称され、米や麦の栽培・養豚が盛んでのどかな東海村が変貌していったのは、旧日本原子力研究所の東海村設置が決まった1956年から。東海村には現在、面積わずか38km²の内に東海第二発電所を含めて11もの原子力事業所があります。大名さんは東海第二発電所から約3.6km、旧動力炉・核燃料開発事業団（旧動燃）東海事業所から約2km、原子燃料工業事業所（原燃工）から約600mの場所に居住。1997年旧動燃東海再処理工場のアスファルト固化処理施設で起きた火災爆発事故、1999年のJCO臨界事故を経験し、2011年東日本大震災時は東海第二原発が電源喪失して「あわや」という経験も。東海村は「他自治体ではあり得ない原子力事業所と民家が隣りあわせの状況」にあり、原発から5キロ圏に約3万8千人の全村民が暮らしています（30キロ圏には92万人）。村の避難計画では、避難用「バス」は確保できていないし、2011年の震災時液状化や津波被害があった「常陸那珂港IC」など、地震との複合災害では使えない経路も使うことになっており、実効性には疑問符が付きます。また、2023年には防潮堤の施工不良を隠蔽していたこと、2025年2月には原発の心臓部である中央制御室で火災を起こすなど、信頼がおけない事業者に対して、裁判所は原発運転の差止めの判決を出してほしい！！と訴えました。

・福島事故のとき、私は200km離れた松戸市に住んでいましたが不安でたまらなかつたです。それが、目と鼻の先で起きるかもしれない大名さんの恐怖はいったいどれほどでしょうか。そこには人が住んでいることに裁判官は思いを馳せてほしいと思いました。次回、第8回口頭弁論は 12/3（水）14時からです。ぜひ傍聴応援にお越しください。

（報告：原告団事務局 職員木本）

常総生協に関わるみなさん、こんにちは(^^)
ハチドリ仲間(南米・先住民の昔話、森の火を消そうと
小さな嘴・くちばしで水を運ぶハチドリのお話より)をつなぐ
新しいコーナー「ハチドリ・レター」です。
今週は理事の森さんからです♪



今なぜグリホサート?



グリホサート(アミノ酸系除草剤)が人体や動植物に害となる除草剤の成分ということは、ずいぶん前からよく知られています。とはいっても今話題にするのか? それは、5月に「食の安全を守る人々」という映画を観て、気になったことがあったからです。5月に観たのに、もう9月。テンポがスローなのはお許しください。

映画では河田昌東(元名古屋大学理学部助手・分子生物学、遺伝子組み換え情報室代表)さんたちが、名古屋から1年間東京に通って、旧厚生省に提出された、積むと1メートルある英文の資料を読んで、モンサント社(遺伝子組み換え作物や農薬の会社、2018年にバイエル社に買収)が各国にグリホサートの残留基準を緩和するよう要請していたことを突き止めた、とありました。



それはすごい、とひたすら感心したのですが、映画で観ただけで、正しく理解できたか心配でした。ネットで探すと「モンサントの企業秘密」というタイトルで、この情報がありました。

モンサント社の除草剤耐性大豆「ラウンドアップ・レディー」は、従来のように作物の播種前ではなく発芽後大きくなつてから除草剤を散布できるので、省力化できる。しかし除草剤の散布が遅くなると、葉面から吸収される量が増え、残留する薬剤が増えるため、安全審査申請書には許容濃度の引き上げが必要と書かれていたのです。その後アメリカのグリホサート残留基準は引き上げられました。モンサント社と関係が深いといわれる食品医薬品局(FDA)が許可したからです。日本でも大豆は1999年に6ppmから20ppmになり、さらに2017年には幾つかの食品も緩和され、小麦の基準は5ppmから30ppmになりました。これはプレハーベスト農薬という除草剤の新たな使い方が増えているからでしょうか。収穫直前に収穫しやすいように小麦を枯らしてから収穫する方式です。カナダや米国産の小麦からのグリホサート検出率が高くなっています。

グリホサートの健康障害としては、発がん性(アメリカでの超高額の訴訟は有名です)、生殖や出産への影響を及ぼす環境ホルモンであること、神経毒性が確認されています(日本消費者連盟のブックレット「農薬の不都合な真実」より)。また有益な腸内細菌に的を絞って殺すなど、様々な影響があるようです(ゼン・ハニーカットさん著書「あきらめない UNSTOPPABLE」より)。

日本の大豆の自給率はわずか7%。油や醤油や味噌の原料や飼料用など日本は大量の大豆を輸入していますが、そのほとんどが除草剤耐性、遺伝子組み換え大豆です。そのことを考えると、大豆プロジェクトの横瀬さんや倉持さんの大豆、そして味噌造りの原料になつて山形のおきたま興農舎さんの大豆がいかに貴重なものかがわかります。また、生協の国産大豆の納豆も大切に食べたいです。

グリホサートと言うと、2020年、日本消費者連盟と遺伝子組み換え食品いらないキャンペーンが調査した「パンのグリホサート残留検査結果」があります。輸入小麦で作られたパンからはグリホサートが検出されています。今や多くの人が食べているパンですが、これも国産小麦を原料とするものはごくわずかです。

国産小麦・天然酵母のしっかりしたパンより、我が家では夫がフワフワのパンが好きで、夫が食べる分はそっちの方を購入しています。夫は後期高齢者になったのでもういいかとも思いますが、子どもや若い人達にはぜひ国産小麦のパンを食べてもらえればと思います。 (理事 森博子)

10/4（土）開催の生協まつり♪ 場所は取手ウェルネスプラザ！

8/25週配布のカタログと一緒に「生協まつり」チラシを配布しましたが、残念ながら「金子製麺」「雪和商事」の出店はご都合によりキャンセルとなりましたのでご了承ください。



ぜひ家族やお友だちもお誘いのうえ、お越しください♪

サポーターも引き続き、大募集！！前日や当日手伝い、チラシ配布やポスター掲示など一緒に生協まつりを盛り上げませんか？（組合員意見欄もしくは右のQRコードに！）（職員 稲垣）



生協まつり出店者のご紹介♪

◇◇ 無茶々園（愛媛県・西予市）

早生みかんの販売など

農業を主軸として、集落や町全体で気持ちよく暮らせる田舎を作りたい。山と海の恵みに感謝しながら、ふるさとを後世まで守り続けていくことが皆の想いです。



今では地域のたくさんのみかん農家が、無茶々園の旗印の下、「地域協同組合」として環境への負荷が少ないみかん栽培に取り組んでいます。



◇◇ 遠忠食品（埼玉県・越谷市）

佃煮、惣菜等の販売など

大正2年に創業した江戸前の佃煮屋です。主力商品は海苔の佃煮で昔ながらの直火炊き製法と人工的な添加物は加えず、味を守り続けています。

海苔は日本の広い範囲で生産されていますが、主に江戸時代からの名産地である木更津で、海苔を養殖している漁師から仲介を介さずに海苔を直接仕入れています。



◇◇ コタニ

（岩手県・大船渡市）海藻の販売

品質にこだわった各種海藻や乾物商品を多数取り扱っています。特にわかめの中で最高級とされる「岩手わかめ」では30年以上の加工・販売の実績があり地元漁協と連携して仕入、加工を行っております。本当に美味しいと思う商品だけを安心・安全にお届けしています。



◇◇ トクスイコーポレーション

（東京都・中央区）

水産品の販売など

創業から100年以上の長きにわたり、日本はもちろん、世界の海の恵みを扱っています。中でも「えび」はトクスイの代名詞。ベンガル湾、アンダマン海周辺で漁獲された天然えびと自然に近い「粗放養殖」のブラックタイガーをお届けしています。また、グループ会社の東北トクスイでは冷凍魚の切身加工や漬魚の製造を通じてお魚のある食卓の提案を行っています。



◇◇ 藤井養蜂場（福岡県・朝倉市）

はちみつ、食菜酢の販売

はちみつの生産は、その時のミツバチの状態や天候などにより、常に一定の品質を持ったものが採れることはなく、さまざまな特徴を持ったはちみつが採れます。はちみつは自然そのものもあるため、工場に入荷したはちみつは自社独自の品質管理基準で全工程において厳しくチェックします。安心できる自然の豊かさをそのまま備えた商品の提供こそ、ミツバチの働きに報いることになると考えています。



◇◇ いばらきベーグル

（茨城県・常総市）

ベーグルの販売

生協のほど近く、守谷市内に店舗を構えています。子どもが食べ物のアレルギーによるじんましんになったことをキッカケに現代の食べ物について真剣に考え『子供から大人まで安心して食べることができるパン』を作ろうと試行錯誤を重ねて完成させました。国産小麦粉を使い、旬の地場野菜をたっぷり使った栄養満点の野菜ベーグルが特徴です。

